

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
1	$\frac{x+1}{2x^2+x-6} \cdot \frac{x+2}{2x^2+5x+2}$ $= \frac{x+1}{(2x-3)(x+2)} \cdot \frac{x+2}{(2x+1)(x+2)}$ <p>(1)</p> $= \frac{(x+1)(2x+1) - (x+2)(2x-3)}{(2x-3)(x+2)(2x+1)}$ $= \frac{2x+7}{(2x-3)(x+2)(2x+1)}$		5
	<p>(2)</p> $\left(2x^3 - \frac{1}{x}\right)^7$ の展開式の一般項は ${}_7C_r (2x^3)^{7-r} \left(-\frac{1}{x}\right)^r = {}_7C_r 2^{7-r} (-1)^r x^{21-4r} \quad (r=0,1,2,\dots,7)$ $x^{21-4r} = x^9 \text{ より, } 21-4r=9$ よって, $r=3$ x^9 の係数は ${}_7C_3 \cdot 2^4 \cdot (-1)^3 = -560$		7
2	<p>(1)</p> 得点を小さい方から順に並べると 43, 56, 64, 68, 72, 74, 80, 93 第1四分位数は $\frac{56+64}{2} = 60$, 第3四分位数は $\frac{74+80}{2} = 77$ したがって, 四分位範囲は, $77-60=17$ (点)		5
	<p>(2)</p> x 以外の得点を小さい方から順に並べると 43, 56, 64, 68, 74, 80, 93 x を含めた8個のデータの中央値は $x \leq 64$ のとき, $y = \frac{64+68}{2} = 66$ の1通り $65 \leq x \leq 73$ のとき, $y = \frac{68+x}{2}$ の9通り $74 \leq x$ のとき, $y = \frac{68+74}{2} = 71$ の1通り したがって, $1+9+1=11$ より, 11通り		8
3	<p>(1)</p> 正弦定理より $\frac{2\sqrt{2}}{\sin 60^\circ} = 2R$ $R = \frac{2\sqrt{6}}{3}$		5
	<p>(2)</p> AB = x とおく。 余弦定理より $(2\sqrt{2})^2 = x^2 + (1+\sqrt{5})^2 - 2 \cdot x \cdot (1+\sqrt{5}) \cos 60^\circ$ $x^2 - (1+\sqrt{5})x - 2(1-\sqrt{5}) = 0$ $(x-2) \{x + (1-\sqrt{5})\} = 0$ $x = 2, \sqrt{5}-1$ したがって, AB = $2, \sqrt{5}-1$		5

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 〔例〕	採 点 上 の 注 意	配 点
4	<p>すべての整数 n は、 $n=3k, n=3k+1, n=3k+2$ (k は整数) のいずれかの形で表される。</p> <p>〔1〕 $n=3k$ のとき $(n+1)^2 = (3k+1)^2 = 9k^2 + 6k + 1 = 3(3k^2 + 2k) + 1$</p> <p>〔2〕 $n=3k+1$ のとき $(n+1)^2 = (3k+2)^2 = 9k^2 + 12k + 4 = 3(3k^2 + 4k + 1) + 1$</p> <p>〔3〕 $n=3k+2$ のとき $(n+1)^2 = (3k+3)^2 = 9k^2 + 18k + 9 = 3(3k^2 + 6k + 3)$</p> <p>〔1〕～〔3〕より $(n+1)^2$ を 3 で割ったときの余りは、0 または 1 である。</p>		15
5	$y = \sin^2 \theta + \sin \theta \cos \theta + 2 \cos^2 \theta$ $= \frac{1 - \cos 2\theta}{2} + \frac{1}{2} \sin 2\theta + 2 \cdot \frac{1 + \cos 2\theta}{2}$ $= \frac{1}{2} \sin 2\theta + \frac{1}{2} \cos 2\theta + \frac{3}{2}$ $= \frac{1}{2} (\sin 2\theta + \cos 2\theta) + \frac{3}{2}$ $= \frac{1}{2} \sqrt{2} \sin \left(2\theta + \frac{\pi}{4} \right) + \frac{3}{2}$ <p>$-\frac{\pi}{4} \leq \theta \leq \frac{\pi}{4}$ より、$-\frac{\pi}{4} \leq 2\theta + \frac{\pi}{4} \leq \frac{3}{4}\pi$</p> <p>よって、$-\frac{\sqrt{2}}{2} \leq \sin \left(2\theta + \frac{\pi}{4} \right) \leq 1$</p> $-\frac{1}{2} \leq \frac{\sqrt{2}}{2} \sin \left(2\theta + \frac{\pi}{4} \right) \leq \frac{\sqrt{2}}{2}$ $1 \leq \frac{\sqrt{2}}{2} \sin \left(2\theta + \frac{\pi}{4} \right) + \frac{3}{2} \leq \frac{3 + \sqrt{2}}{2}$ <p>したがって、$1 \leq y \leq \frac{3 + \sqrt{2}}{2}$</p>		15
6	<p>点 P, Q の位置ベクトルをそれぞれ \vec{p}, \vec{q} とおくと s, t を実数として $\vec{p} = (1, 3, 0) + s(-1, 0, -1) = (-s+1, 3, -s)$ $\vec{q} = (-1, 0, 2) + t(-1, 1, 0) = (-t-1, t, 2)$ と表される。</p> <p>$PQ^2 = \vec{PQ} ^2$ $= \vec{q} - \vec{p} ^2$ $= (s-t-2)^2 + (t-3)^2 + (s+2)^2$ $= 2s^2 - 2st + 2t^2 - 2t + 17$ $= 2 \left(s - \frac{t}{2} \right)^2 + \frac{3}{2} \left(t - \frac{2}{3} \right)^2 + \frac{49}{3}$</p> <p>したがって、$s = \frac{1}{3}, t = \frac{2}{3}$ のとき、PQ は最小値 $\frac{7\sqrt{3}}{3}$ をとる。</p>		15

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 〔例〕	採 点 上 の 注 意	配 点
7	$x + y = k$ とおく。このとき、 $y = k - x$ $x^3 + y^3 = 2xy$ より $x^3 + (k - x)^3 = 2x(k - x)$ $x^3 + k^3 - 3k^2x + 3kx^2 - x^3 = 2kx - 2x^2$ $(3k + 2)x^2 - k(3k + 2)x + k^3 = 0 \quad \dots \textcircled{1}$ $k = -\frac{2}{3}$ のとき、 $\textcircled{1}$ は成り立たないので、 $k \neq -\frac{2}{3} \quad \dots \textcircled{2}$ $\textcircled{1}$ を満たす実数 x が存在するので $k^2(3k + 2)^2 - 4(3k + 2)k^3 \geq 0$ $k^2(3k + 2)\{(3k + 2) - 4k\} \geq 0$ $k^2(3k + 2)(2 - k) \geq 0$ $k^2(3k + 2)(k - 2) \leq 0$ $-\frac{2}{3} \leq k \leq 2$ $\textcircled{2}$ より $-\frac{2}{3} < k \leq 2$ したがって、 $-\frac{2}{3} < x + y \leq 2$		15
8	$S = \pi \int_1^{e^a} (\log y)^2 dy$ $= \pi [y(\log y)^2]_1^{e^a} - \pi \int_1^{e^a} y \cdot \frac{2}{y} \log y dy$ $= \pi e^a a^2 - 2\pi [y \log y - y]_1^{e^a}$ $= \pi e^a a^2 - 2\pi(e^a a - e^a + 1)$ $= (a^2 - 2a + 2)\pi e^a - 2\pi$ $T = \pi \int_0^a \left(e^{\frac{x}{2}}\right)^2 dx$ $= \pi [e^x]_0^a$ $= \pi e^a - \pi$ $S = 2T$ より $(a^2 - 2a + 2)\pi e^a - 2\pi = 2(\pi e^a - \pi)$ $(a^2 - 2a)e^a \pi = 0$ $a(a - 2)e^a \pi = 0$ $a > 0$ より、 $a = 2$		15

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)	採 点 上 の 注 意	配 点
9	<p>n回目にA, Bが試行を行う確率をそれぞれa_n, b_nとおくと $a_1 = 1, b_1 = 0$ $a_{n+1} = \frac{1}{2}a_n + \frac{1}{4}b_n \quad \dots \textcircled{1}$ $b_{n+1} = \frac{1}{4}a_n + \frac{1}{2}b_n \quad \dots \textcircled{2}$</p> <p>①+②より $a_{n+1} + b_{n+1} = \frac{3}{4}(a_n + b_n) \quad \dots \textcircled{3}$</p> <p>①-②より $a_{n+1} - b_{n+1} = \frac{1}{4}(a_n - b_n) \quad \dots \textcircled{4}$</p> <p>③より, $a_n + b_n = (a_1 + b_1)\left(\frac{3}{4}\right)^{n-1} = \left(\frac{3}{4}\right)^{n-1} \quad \dots \textcircled{5}$</p> <p>④より, $a_n - b_n = (a_1 - b_1)\left(\frac{1}{4}\right)^{n-1} = \left(\frac{1}{4}\right)^{n-1} \quad \dots \textcircled{6}$</p> <p>⑤+⑥より, $a_n = \frac{1}{2}\left\{\left(\frac{3}{4}\right)^{n-1} + \left(\frac{1}{4}\right)^{n-1}\right\}$</p> <p>したがって, 求める確率は $\frac{1}{4}a_n = \frac{1}{8}\left\{\left(\frac{3}{4}\right)^{n-1} + \left(\frac{1}{4}\right)^{n-1}\right\}$</p>		15
10	<p>(ア) 頂点Aから辺BCに垂線をおろし辺BCとの交点をHとする。 直角三角形ABHにおいて, 三平方の定理より $AB^2 = AH^2 + BH^2 = AH^2 + (BM + MH)^2$ $= AH^2 + BM^2 + 2BM \cdot MH + MH^2 \quad \dots \textcircled{1}$ 直角三角形ACHにおいて, 三平方の定理より $AC^2 = AH^2 + CH^2 = AH^2 + (CM - MH)^2$ $= AH^2 + CM^2 - 2CM \cdot MH + MH^2 \quad \dots \textcircled{2}$ 直角三角形AMHにおいて, 三平方の定理より $AM^2 = AH^2 + MH^2$ また, $BM = CM$より, ①+②は $AB^2 + AC^2 = 2BM^2 + 2(AH^2 + MH^2)$ $= 2(BM^2 + AM^2)$ したがって, $AB^2 + AC^2 = 2(AM^2 + BM^2)$</p> <p>(イ) 直線BCを$x$軸に, 辺BCの垂直二等分線を$y$軸にとると, Mは原点Oになり, 三角形の頂点A, B, Cの座標はそれぞれ $A(a, b), B(-c, 0), C(c, 0)$と表すことができる。 このとき $AB^2 + AC^2$ $= \{(-c - a)^2 + (0 - b)^2\} + \{(c - a)^2 + (0 - b)^2\}$ $= 2(a^2 + b^2 + c^2)$ また, $AM^2 + BM^2 = a^2 + b^2 + c^2$ したがって, $AB^2 + AC^2 = 2(AM^2 + BM^2)$</p> <p>(ウ) $\vec{MA} = \vec{a}, \vec{MB} = \vec{b}$とおく。 このとき, $\vec{MC} = -\vec{b}$であり $\vec{AB} ^2 = \vec{b} - \vec{a} ^2 = \vec{b} ^2 - 2\vec{b} \cdot \vec{a} + \vec{a} ^2 \quad \dots \textcircled{1}$ $\vec{AC} ^2 = -\vec{b} - \vec{a} ^2 = \vec{b} ^2 + 2\vec{b} \cdot \vec{a} + \vec{a} ^2 \quad \dots \textcircled{2}$ ①+②より $\vec{AB} ^2 + \vec{AC} ^2 = 2(\vec{a} ^2 + \vec{b} ^2) = 2(\vec{MA} ^2 + \vec{MB} ^2)$ したがって, $AB^2 + AC^2 = 2(AM^2 + BM^2)$</p>		各 10 × 3 30

高等学校数学科採点基準

5枚のうち5

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
11	(1) $a > 0, a \neq 1$ とするとき、任意の正の数 M に対して、 $a^p = M$ となる実数 p が、ただ1つ定まる。この p を、 a を底とする M の対数といい、 $\log_a M$ と表す。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	5
	(2) 「 $2^x = 3$ を満たす実数 x はこれまで学習した数を使って簡単に表すことができないが、 $y = 2^x$ のグラフを用いて、その存在は確認できる。そこで、 $2^x = 3$ を満たす実数 x を記号 \log を使って、 $\log_2 3$ と表す。」のような具体例を用いた指導を行う。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10
12	(1) 男子1人、女子2人を選ぶ場合は、 ${}_5C_1 \times {}_4C_2 = 30$ (通り) 男子2人、女子1人を選ぶ場合は、 ${}_5C_2 \times {}_4C_1 = 40$ (通り) したがって、 $30 + 40 = 70$ (通り)		5
	(2) 男子5人女子4人の合計9人から3人を選ぶ選び方の総数は、 ${}_9C_3 = 84$ (通り) であり、解答の140は84よりも大きいことから間違いであることに気付かせる。さらに、特定の男子A、Bに注目させる等、重複して数え上げている原因を考えさせ、もれなく、重複することなく数え上げる方法について、具体例を通して理解させる指導を行う。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10
13	「数学Ⅱ」の 三角関数 において、一般角の正弦、余弦、正接を定義し三角関数の特徴について指導する際、「数学Ⅰ」の 図形と計量 において、 0° から 180° までの正弦、余弦、正接を三角比として扱っていることを踏まえ、一般角の正弦、余弦、正接の定義が、「数学Ⅰ」で定義した三角比の自然な拡張になっていることを確認させる。	問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。	15